

# てんかん啓発でコラボ

広大病院とサンフレバツジ配布も

南区の広島大病院とサッカーJ1・サンフレッチェ広島は7日、てんかんの啓発事業で連携した取り組みをすると発表した。てんか

ん啓発のシンボル色とチームカラーが同じ紫色のため、病院側が協力を依頼した。10日、サンフレの公式戦があるエディオンスタジアム広島(安佐南区)でコラボバツジを無料配布するなど、さまざまな試みを予定している。

てんかんは、脳の神経細胞が一時的に異常に興奮し、意識喪失や

けいれんなどの発作を起こす慢性の病気。全国で約100万人の患者がいるとされる。脳の外傷や腫瘍などが原因のため、乳児から高齢者まで発症する可能性がある。大部分は投薬で発作を抑えられるが、誤解や偏見が根強い。広島大病院は2014年に各診療科と部門が協力する「てんかんセンター」を設け、治療や啓発活動をしている。

この日は、飯田幸治センター長とサンフレ

てんかんの啓発に連携して取り組むサンかんセンターの飯田センター長(右)と広島大病院で

AND SPLENDOR EVEN A



の織田秀和社長が「市民に身近なスポーツ、正しい知識をもちうきかけたい」と話した。バツジは、世間のものを身に「パープRするデている。【石川裕士】



てんかん啓発のために製された広島とサンフレコラボバツジ